

平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

苫小牧市立青翔中学校

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 子どもの体力が低下している状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象

- 中学校第 2 学年の全生徒

(3) 調査の内容

- ① 生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
 - ・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（20m シャトルラン）、50m 走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
 - イ 質問紙調査
- ② 学校に対する質問紙調査

(4) 調査の方法

- 悉皆調査

(5) 調査の実施期間

- 平成 27 年 4 月から平成 27 年 7 月までの期間で実施

(6) 調査実施生徒数

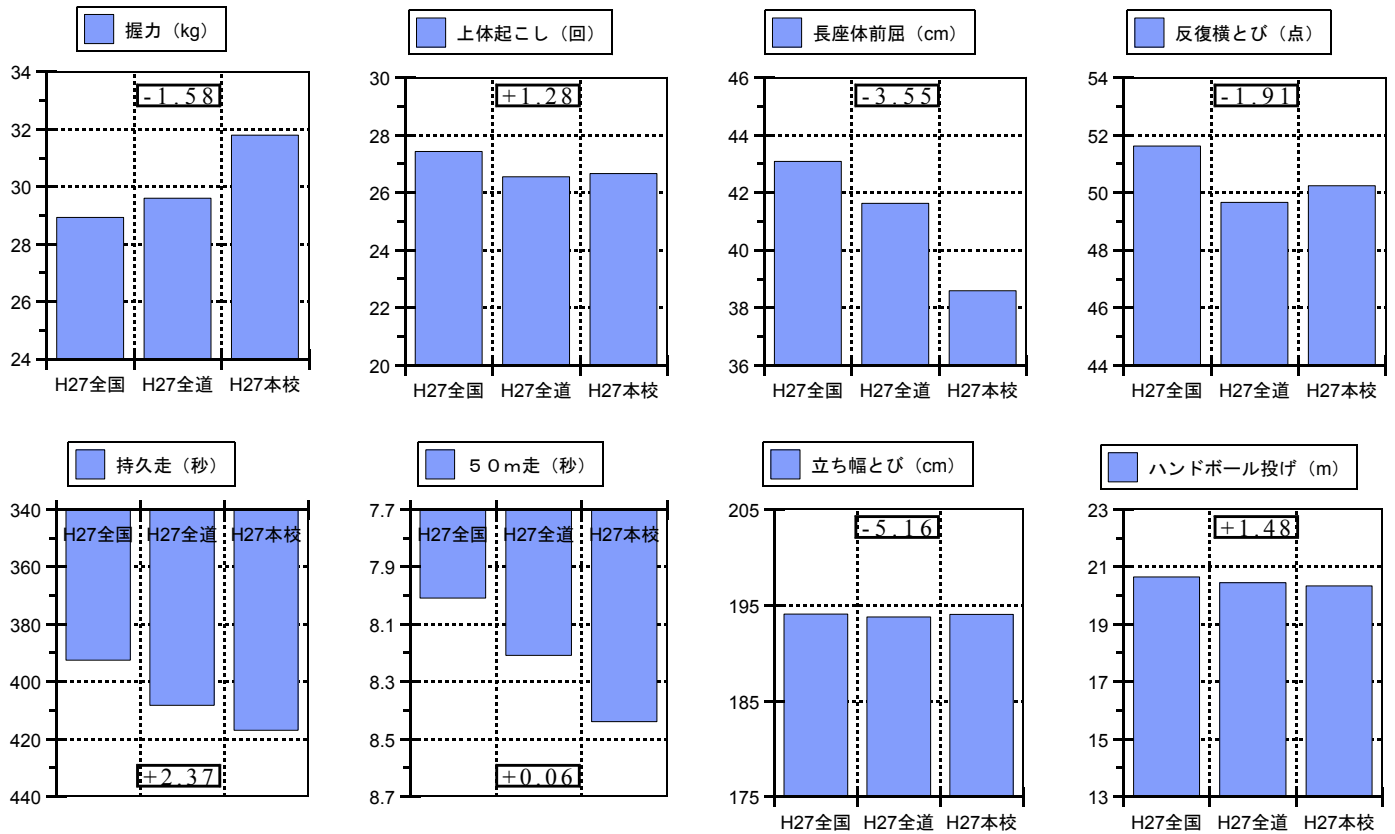
- 男子 117 人、女子 100 人（計 217 人）

2 実技に関する調査

※「+」「-」で示してある数値は、本校のH26年度との比較。
+は今年度の数値の方が高いことを示す

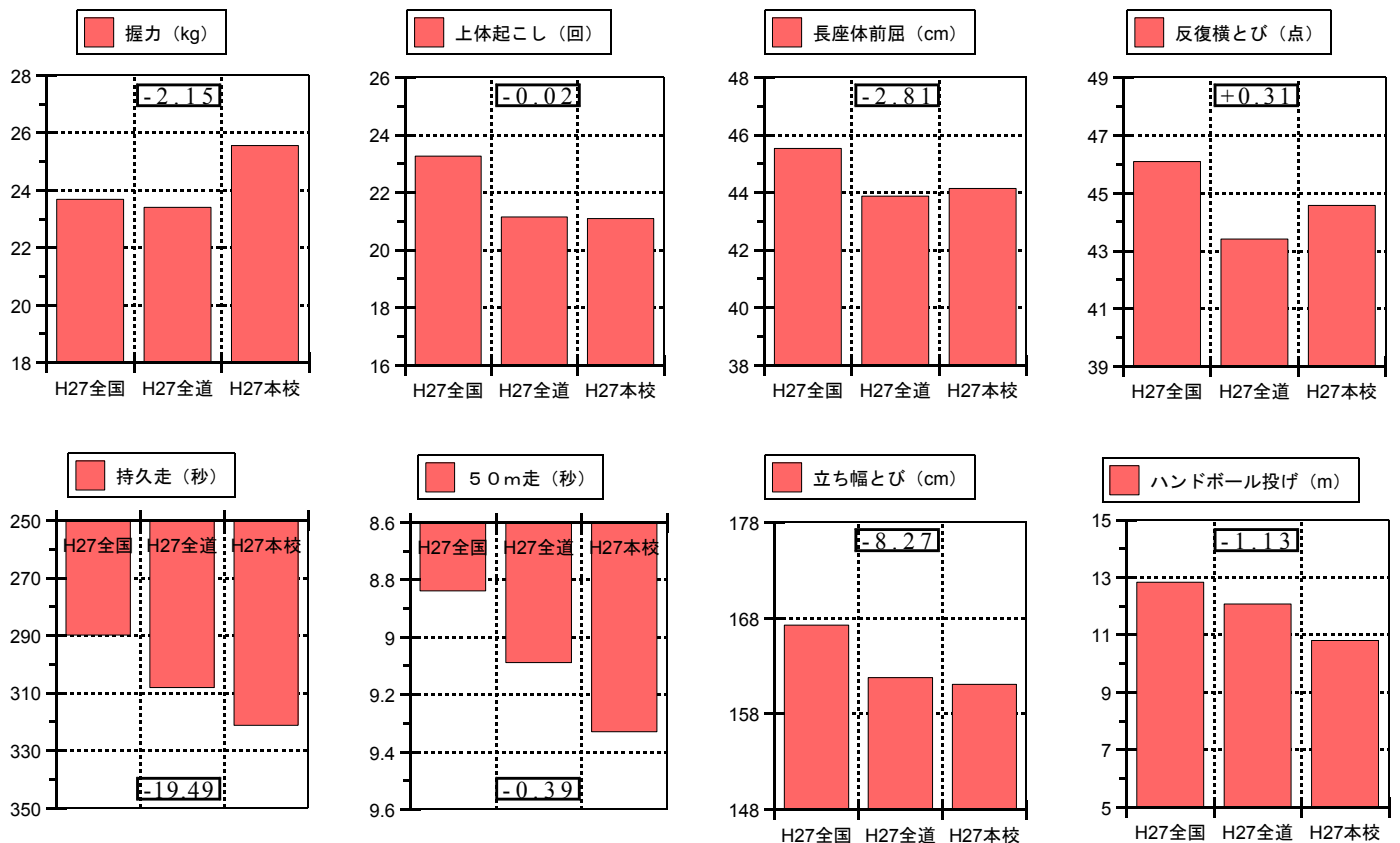
【中学校2年生男子】

※すべての数値の単位は「%」。



【中学2年生女子】

※すべての数値の単位は「%」。



3 体格と肥満度に関する調査

【中学2年生男子】

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長 (cm)	体重 (kg)	肥満 (%)	正常 (%)	痩身 (%)
H27 全国	159.64	48.47	7.5	90.2	2.3
H27 全道	161.15	50.04	9.0	88.4	2.6
H27 本校	160.83	47.95	3.4	94.0	2.6

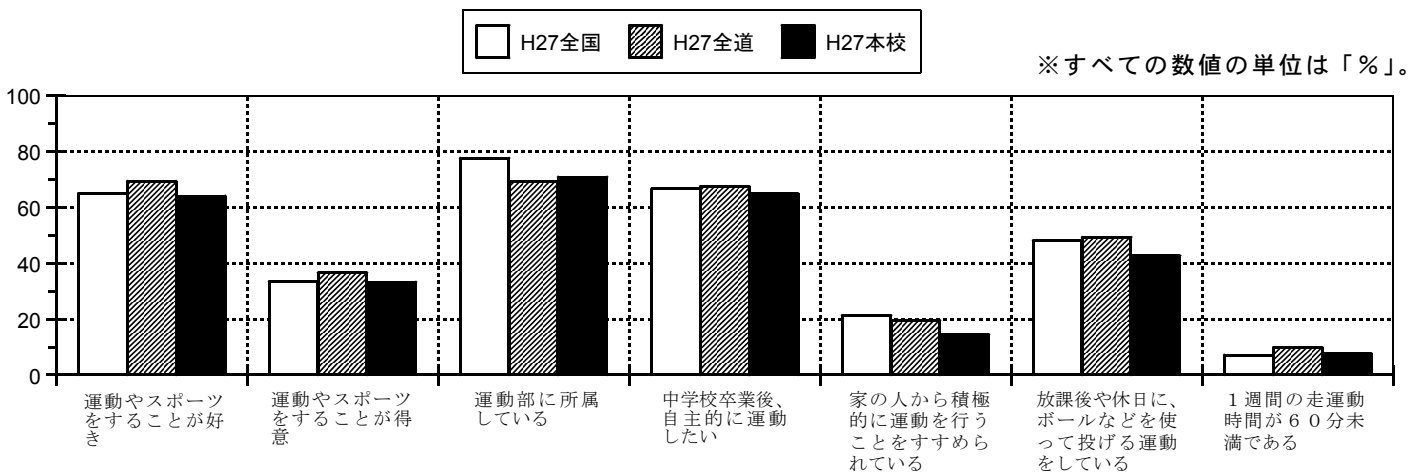
【中学2年生女子】

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長 (cm)	体重 (kg)	肥満 (%)	正常 (%)	痩身 (%)
H27 全国	154.83	46.75	6.7	89.5	3.8
H27 全道	155.26	46.95	7.2	88.7	4.1
H27 本校	154.52	46.79	6.0	93.0	1.0

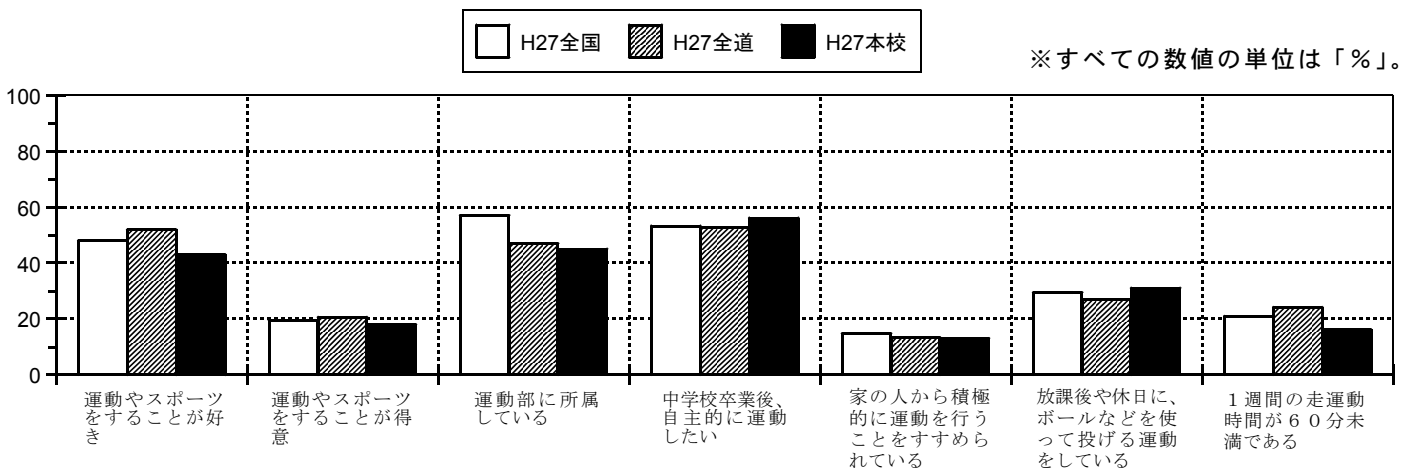
4 生徒質問紙調査

(1) 運動習慣等の状況

【中学2年生男子】

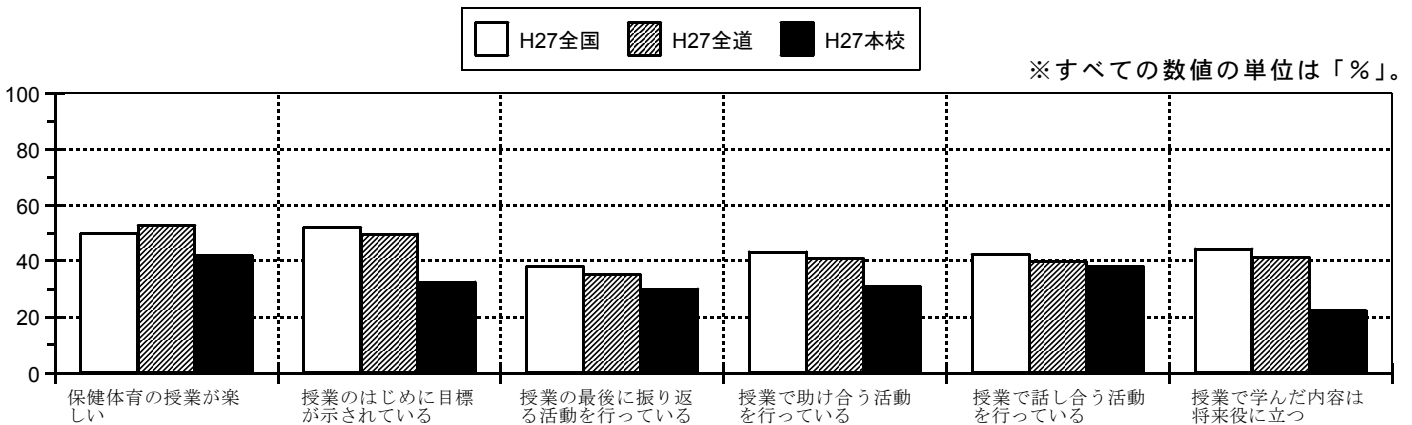


【中学2年生女子】

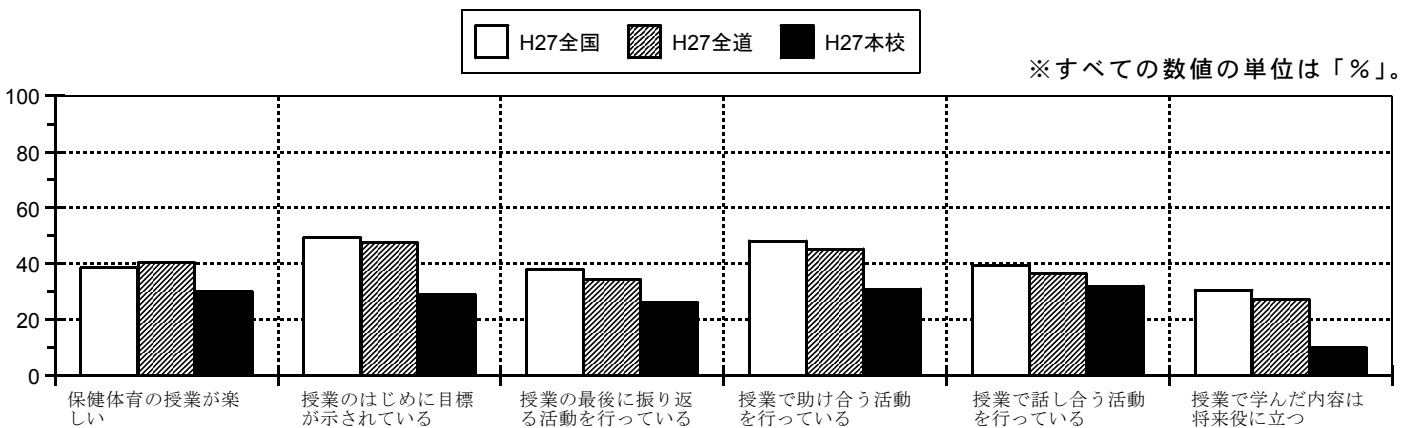


(2) 保健体育授業の状況－1 授業に対する意識

【中学2年生男子】

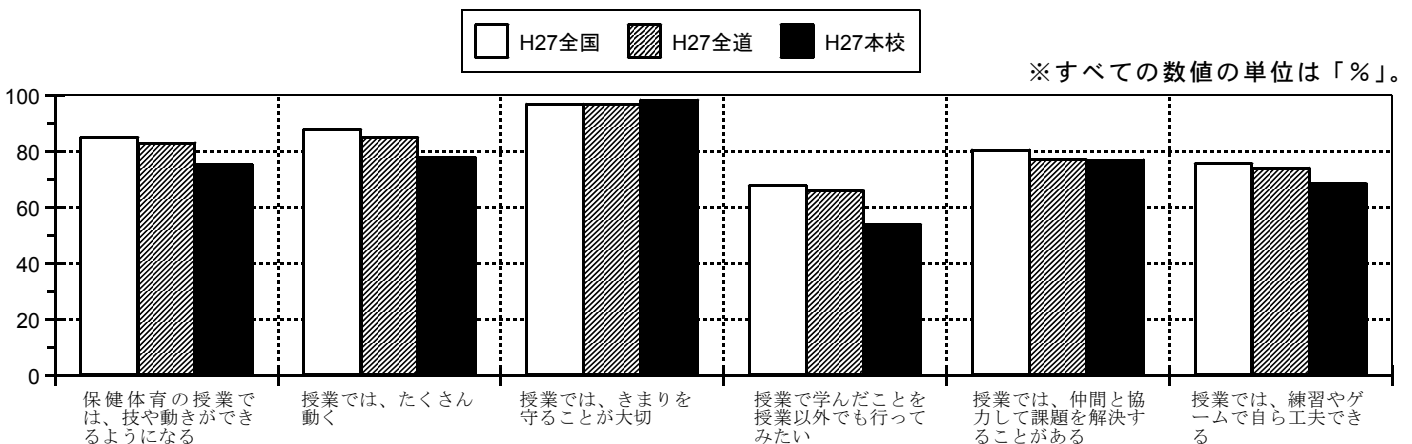


【中学2年生女子】

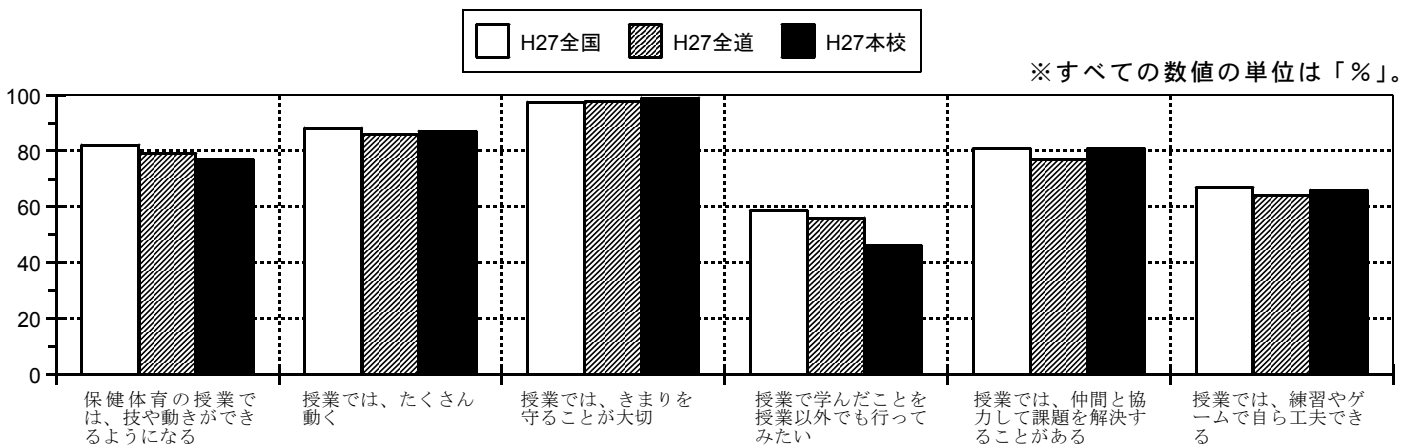


(3) 保健体育授業の状況－2 授業のとらえ方

【中学2年生男子】



【中学2年生女子】



＝ 調査結果における本校の傾向及び考察等 ＝

5 実技に関する調査

【中学2年生男子】

- 「握力」は、全国・全道平均を大きく上回っている。
- 「上体起こし」「反復横跳び」は、全道平均を上回っている。
- 「立ち幅跳び」「ハンドボール投げ」は、全国・全道平均とほぼ同等である。
- 「長座体前屈」「50m走」は、全国・全道平均を大きく下回っており、「持久走」は全国・全道平均を下回っている。
- ◇ 同一集団の比較（1年生時の記録と2年生時の記録の比較）においては、すべての種目において、記録は向上しているものの、「長座体前屈」の記録の伸び率が低く、課題となっている。

【中学2年生女子】

- 「握力」は、全国・全道平均を大きく上回っている。
- 「長座体前屈」「反復横跳び」は、全道平均を上回っている。
- 「上体起こし」「立ち幅跳び」は、全道平均とほぼ同等であるが、全国平均を大きく下回っている。
- 「50m走」は、全国・全道平均を大きく下回っており、「持久走」「ハンドボール投げ」は全国・全道平均を下回っている。
- ◇ 同一集団の比較（1年生時の記録と2年生時の記録の比較）においては、全ての種目において、記録は向上しているものの、「ハンドボール投げ」の記録の伸び率が低く、課題となっている。

- ・男子は「長座体前屈」、女子は「立ち幅跳び」に課題が見られることから、「授業の導入段階での『柔軟運動』や「マットを使った運動での『立ち幅跳び』『柔軟運動』」を取り入れるなどを意識した授業展開を図っていく必要がある。
- ・時期的なことも考え、筋力や柔軟性の目安となる「上体起こし」「長座体前屈」において、重点化した取組を行うとともに、この2種目については、再度測定を実施し、その成果を検証する。

6 体格と肥満度に関する調査

- 男女とも、体格（身長・体重）において、全国・全道平均との大きな差異は見られない。
- 男子においては、高度・中度肥満傾向の生徒は認められない。
- 女子においては、高度肥満・高度痩身傾向の生徒は認められない。
- 総括として、体格等において、全道・全国平均から見ても、本校の生徒は良好な状態にあると言える。

7 生徒質問紙調査

(1) 運動習慣等の状況

- 男女とも、全国・全道との比較において、大きな差異は見られない。
- 女子においては、全国平均と比べ、運動部への加入率がやや低いものの、「中学卒業後、自主的に運動したい」と考える生徒の割合が高いことや「1週間の運動時間が60分未満」の生徒の割合が低いことから、運動に対する意識が高まっているものとする。

(2) 保健体育授業の状況－1 授業に対する意識

- 男女とも、「授業のはじめに目標が示されている」「授業で学んだ内容が将来役に立つ」と回答している生徒の割合が全国・全道平均を大きく下回っている。

- ・ 生徒自身において、授業の流れを意識できるように、授業導入時の「課題確認」を徹底する。
- ・ 自己の記録の変化などを明示し、達成感を持たせるのと同時に、保健分野の指導の充実など、実生活に生きる授業を実践する。

(3) 保健体育授業の状況－2 授業に対する意識

- 男女とも、全国・全道との比較において、大きな差異は見られない。
- 特筆すべき点は、男女とも、「授業では、きまりを守ることが大切」と回答している生徒の割合が100%に近く、ルールを守ること・安全に運動を行うことへの意識が定着しているものとする。